

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成26年11月23日	評価結果市町村受理日	平成27年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200034-00&PrEfCd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成27年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者様の能力に応じて無理のない範囲で、ご自分にできることをやっていたり、自信回復や認知症の進行が遅れることに繋がればという思いと、GH特有の少人数での生活の中で、孤立されないよう配慮しながらお世話させていただいています。ご家族にも気軽に来苑していただけるよう、ご意見ご要望なども話しやすい雰囲気作りに努め、ご意見等には真摯に受け止め次に繋げるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員に対して理念に基づいたアンケートを行っている。職員は、自己チェックを行い、安心できる生活のための支援が出来るかを振り返っている。管理者は、この資料を基に、年2回面談を行うことで理念を共有できるように取り組み、職員の意識向上に繋げている。担当者が毎月モニタリングを行い、利用者、家族、かかりつけ医の意見を取り入れている。申し送り、ケア会議にて意見を出し合い介護計画を作成することで、介護計画を意識した支援が行われている。民生委員や地域のいきいきサロンから依頼を受け認知症の方の暮らしについて話をし、事業所の見学に繋がった。見学者からここがあるから安心ができると理解が得られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度の職員会議の中で全員で唱和を行っているまた、理念に沿ったケアができているかの自己チェックを行い、個人面談の中でも理念の共有を図っている。	管理者は、理念に基づいた項目でアンケートを行い、定期的に面談して理解度を確認している。職員は、自己チェックを行い、利用者の安心できる生活を支援することが出来ているのか振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近所の散歩や外出支援など交流できる機会を作っている。自治会長には手作りの野菜をいただいたり、避難訓練にお招きしたり良好な関係が築けている。	保育園の資源回収や地域の行事などに参加している。地域の民生委員やいきいきサロンで認知症の方の暮らしの話をして、事業所の見学に繋がった。見学時に地域にあって安心できる声が掛けられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方を通じてGHを地域の方々に認識していただき、見学会や交流会の場を作り、認知症についてお話させてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の発表の方法について、ご意見をいただき改善した。警察の方からの注意事項も職員に伝達してケアに活かしている。	会議では、活動状況やアクシデント状況を報告し意見交換を行っている。活動状況報告などの資料が見にくいと意見があり改善した。家族が参加しやすいように曜日や時間を変更しているが、参加が少ない。	家族に出席してもらえるような働きかけ、工夫を今後も継続して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも出席していただき、内部の実情はよく理解していただいております、相談もしやすい関係が築けている。	利用者の申請の代行、事故報告の提出など市へ足を運ぶ機会を増やして関係が構築できるように努めている。市の担当者より、介護保険法改正時の説明会の会場として依頼があり引き受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての正しい知識を習得し、日頃より身体拘束をしなくてもすむケアの方法を考え、話し合っている。	契約時に事業所の方針を利用者と家族に説明している。出来る限り自由に過ごせるように見守り、利用者の表情が良くなることで家族の理解も得られている。定期的に勉強会を行い、身体拘束について正しく理解できるようにも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	まず、管理者が高齢者虐待についての勉強会を行った後、全体会議の中で職員にも勉強会を行っている。また、不適切なケアにおいて注意し合える環境作りに努めている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、左記の制度を必要とするケースはないが、制度についての勉強会は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込み時にも入所の概要を説明し、契約時には十分な説明を行い、ご理解・ご納得をいただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情相談窓口として、県の運営適正化委員会や第三者委員会があることを説明し、玄関にもポスターで連絡先をお知らせしている。	利用者から、入浴時や夜間など1対1の時に意見や要望を聞いている。家族には、面会時に声を掛けたり、年1回アンケートを行ったりして要望を聞くように努めている。外出先や頻度などの要望があり反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、トップマネジメント会議を開催し、職員の意見を伝える場として活用している。	管理者は、職員の表情がいつもと違うと感じた時は声を掛けて、話がしやすい関係を築いている。育児や介護などの家庭の状況により勤務形態を考えている。職員の要望から日帰り旅行を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の状況を把握した者(ホーム長)が代表者に報告している。職員が働きやすい環境であるようシフトを作成して整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修計画を立案し職員のスキルアップができるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネ連絡会・運営委員会などに積極的に参加したり、隣接している事業所とは日常的に交流・連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される段階で「ご本人らしく暮らしていただけるためのシート」を用いて、ニーズの把握に努めそれを踏まえてサービスを提供する内容を説明することで、安心してご利用いただけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族の思いをしっかり把握し、ケアプランの第一表にもかけ、説明するなど信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入前に担当ケアマネやご家族、ご本人との面談において、現状で一番良い方法を見出せるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に工作したり、料理のアイデアをいただいたり、日常的に共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係性を十分に把握した上で入所後も絆がとぎれないよう、働きかけ、ご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の理解・協力をいただきながら、ご本人の馴染んだ床屋や店や病院に行けるよう、環境作りに努めている。	ご本人らしく暮らしていただくための情報シートを活用して馴染みの人や場所を把握している。知人、友人が来られた時は再訪をお願いしている。美容室など馴染みの店に出掛けることを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に食事をしたり、体操やレクリエーションに参加し、交流する機会を多く作るよう努め、関わりが困難時は職員が仲を取り持つよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による契約終了となっても、再入所の申込みをしていただき、退院後、ケアに困らないよう支援しお見舞いにも行き、状況把握にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や就寝時など1対1で関わる際には、利用者の思いを引き出し、把握するよう努めている。また、表情によるリアクションも観察し、意向の把握に努めている。	職員は、出勤時に利用者一人ずつに挨拶をして表情を確認している。表情や態度がいつもと違う時は、声を掛けて思いや意向を聞くように心掛けている。暮らしの中で1対1になる時にゆっくりと時間をかけて聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前までに携わってみえたケアマネや、ご本人・ご家族よりこれまでの暮らしについて情報収集し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしぶりを介護記録に残し、次の勤務者にも申し送りをしながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、全利用者様のモニタリングを行ったり、毎日の申し送りの中でも、小さな気づきについて話し合い、柔軟に対応している。ご家族や主治医とも必要に応じ連携をとっている。	家族の面会時に介護計画の説明を行い、意向や要望を聞いている。担当者がモニタリングを行い、ケース会議で話し合って意見や気付きを取り入れている。かかりつけ医の指示等も反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録用紙に記録を残し、また、申し送りノートにも記入し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法律や契約内容に反しない範囲で可能な限り、柔軟な支援をしていく姿勢で取り組んでいる。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区社会福祉協議会の構成メンバーに入れていただき、小学校をはじめ民生委員や市社協の方々とパイプラインをもつことで行事への参加もしやすくなった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前や新規受診時には、ご本人やご家族の希望を伺い、主治医にも相談しながら、状況に適した医療が受けられるように、連携を図っている。	主治医は、利用者や家族、入居前のかかりつけ医の意向を尊重している。家族と受診する場合は、書面で情報提供し、結果を確認している。かかりつけ医から協力医へ連携が必要な場合は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、心身の状況をしっかり観察し、変調があった際には些細なことでも報告できるよう連携を図っている。急変時には近隣施設の看護師とも連携を図り、協力体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日、お見舞いに行き馴染みの看護師の顔を見せることで、安心感を与えると共に、入院中の利用者の情報交換や相談などを行いながら、病院関係者とも良好な関係作りをし、早期、退院へのアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、施設における終末期に向けた方針を説明している。段階、状況に応じて主治医に相談しながら、ご本人やご家族とも話し合いを密にしながら支援させていただいている。	契約時に事業所の方針を説明している。毎年、重度化や終末期の勉強会を行い、マニュアルを整備している。協力医の協力も得られており、利用者や家族の意向により看取りを行う体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、勉強会や消防署の指導の下、蘇生訓練を実施している。マニュアルや連絡網などを設置し、いざという時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導の下、火災・避難訓練を実施している。設備点検やコンセントの掃除など、防災意識を持って取り組んでいる。運営推進会議の折には地域の協力体制を呼びかけている。	夜間想定を含む避難訓練を年2回、3事業所が協力して実施している。運営推進会議の後に避難訓練を計画し、自治会長や民生委員が参加したが、地域の住民との協力体制の構築が困難な状況である。	避難訓練だけに拘ることなく、地域の方に事業所を訪問できる機会を増やして、協力が得られるような関係作りを工夫して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切にし、人生の先輩として言葉使いや声掛けに注意をはらいながら、尊敬の気持ちで接することを心掛けている。	利用者に不快感をいだかせないような言葉づかいを心掛けている。居室へ入る時はノックと声掛けを行っている。職員の要望から、トイレの入口に、アコーデオンと布カーテンを付けて中が見え難いように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との信頼関係、話しやすい環境作りを心掛けながら、表情や反応を見守りながら自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や様子をみながら、ご本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。行事は事前にお知らせし、参加の意思を確認し強制はせず、ご本人の意思を優先し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪に関しては各利用者様の要望に応じ、地域の美容師さんや、馴染みの床屋さんなどに依頼している。着替えは生活に張りをもたらすので、好きな色や柄、そして、安全で癒しのあるものをご一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時にご家族やご本人に嗜好調査をお願いし、ご希望に添えるよう努めている。皮むき、お膳拭き、食器洗いなど力量に応じてお手伝いしてもらっている。	利用者の食べたいものを聞いて献立を決めている。職員も食卓を囲み、会話をしながら楽しく食事をしている。利用者と一緒に野菜の下処理をしたり、たこ焼きやホットケーキを作ったり、外食に出掛けたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	プラスチックコップから湯呑に変更したり、摂取量、回数を考慮しながら、水分量をキープしている。食事量についても見た目の工夫や、状態に応じて形態を変更したり、う歯や義歯の不具合にも注意し、歯科対応している。好みの温度や味付けにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず実施。お一人ずつ見守りながら自立度に応じて介助している。舌苔も取っていただくよう声掛けさせていただいている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録より排泄のリズムを把握し、定期的な排泄誘導を行っている。失敗があっても自尊心を傷つけないような声掛けを行っている。	排泄の記録にて状況を確認しながら、こまめに声を掛けることで、トイレに誘導している。自尊心を傷つけないように耳元で声を掛けている。自立支援に繋がった方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の排便習慣の確立と繊維性食品、水分補給の援助や腹部マッサージ、温罨法などを施行している。運動不足の方には、散歩やリビング内での歩行も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴するまでの声掛けとタイミングに注意し、その方のペースに合わせてゆったりとした時間を持っていたり、拒否の強い時は無理強いせず、安全に気持ちよい入浴を心掛けている。	入浴の回数や時間、同性介助、順番、湯温など利用者の希望に合わせて心掛けています。利用者のペースを大切に、会話しながらゆっくりと気持ちよく入浴が楽しめるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方の生活リズムを優先しながらも、活動的に過ごしていただけるよう、利用者同士、心地よく交流がもてるよう調整役をしている。環境整備や就眠の援助を行い、夕方から夜間にかけて穏やかに過ごしていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	なぜ薬が追加されたか、増量、減量されたか、注意、観察事項を連絡ノートに記入し周知徹底している。効能、副作用がわかるよう処方箋が所定の場所に設置してある。確実に服用していただくため、錠剤が苦手な方、拒薬傾向の方など服用方法を工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年、愛用されてきた品物、ご家族の写真など見慣れたものに囲まれた中で、ラジオ、折り紙、カラオケなど好きなもので気分転換や、他者との交流に繋げている。レクの作業に関しては、その方の出来る範囲でお手伝いいただき、スタッフと協力し、季節の作品作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々にはご家族の面会時、気分転換を兼ねた外出を依頼、施設では利用者様を総合的に考え、天気の良い日は散歩にお連れしたり、ドライブや食事などを兼ねて外出支援を行っている。近隣施設の夏祭りや、地域や保育園の運動会にも参加させてもらっている。	買物や喫茶店、花見、散歩など車いすの方も一緒に出掛けている。家族と一緒に外出できるように事業所から説明して協力が得られた。ボランティアを依頼して、利用者全員が外出できるように支援している。	

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じたり、他利用者様とのトラブルが生じないよう、ご本人、ご家族と話し合い満足していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、電話を取り次いだり、代弁してご家族に用件をお伝えするなど、状況に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節にちなんだ作品作りをしてリビングなどに展示したり、換気やエアコンによる室温調整など、快適に過ごしていただけるよう工夫している。	リビングは、利用者の要望から採光に気を付け、落ち着けるような明るさになるよう心掛けている。花を飾ったり、玄関前のプランターで野菜を育てたりして、季節感を醸し出させている。懐メロの音楽を流して、居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにあるソファや和室コーナーの畳、玄関ホールに設置してある椅子などで、気の合った利用者様同士が会話されたり、通常はユニット毎に別れておられる仲良しのお仲間写真を眺めたり、また、一人の時間をゆったり過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた机や椅子、スタンドなど安心できる馴染みのものを継続して使っていただけるよう、また、ご自分の作品や写真などを飾り付けて、楽しみや癒しを感じていただけるよう配慮している。	契約時に家族に説明し、冷蔵庫やテレビ、タンスなどが置かれている。使い慣れた椅子や机もあり、日記や習字を書く方もいる。家族との写真や季節の花、作品が飾られており居心地の良い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D1、2シートを活用し、残存機能を把握した上で、利用者様が安心して、安全に自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成26年11月23日	評価結果市町村受理日	平成27年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200034-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度の職員会議の中で全員で唱和している。また、理念に沿ったケアができているかの自己チェックを行い、個人面談の中でも理念の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近所の散歩や外出支援など交流できる機会を作っている。自治会長には手作りの野菜をいただいたり、避難訓練にお招きして良好な関係が築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方を通じてGHを地域の方々に認識していただき、見学会や交流会の場を作り、認知症についてお話させてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の発表の方法について、ご意見をいただいたとき改善した。警察の方からの注意事項も職員に伝達してケアに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席していただき、内部の実情はよく理解していただいております、相談もしやすい関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての正しい知識を習得し、日頃より身体拘束しなくてもすむケアの方法を考え、話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まず、管理者が高齢者虐待についての勉強会を行った後、全体会議の中で職員にも勉強会を行っている。また、不適切ケアにおいて注意し合える環境作りに努めている。		

グリーンホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、左記の制度を必要とするケースはないが制度についての勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込み時にも入所の概要を説明し、契約時には十分な説明を行い、ご理解、ご納得をいただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情相談窓口として、県の運営適正化委員会や第三者委員会があることを説明し、玄関にもポスターで連絡先をお知らせしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、トップマネジメント会議を開催し、職員の意見を伝える場として活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の状況を把握した者(ホーム長)が代表者に報告している。職員が働きやすい環境であるようシフトを作成したり、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修計画を立案し、職員のスキルアップができるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネ連絡会・運営委員会などに積極的に参加したり、隣接している事業所とは日常的に交流・連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される段階で「ご本人らしく暮らしていただけるためのシート」を用いて、ニーズの把握に努めそれを踏まえて、サービスを提供する内容を説明することで、安心してご利用いただけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族の思いをしっかりと把握し、ケアプランの第一表に掲げ、説明するなど信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入前に担当ケアマネやご家族、ご本人との面談において、現状で一番良い方法を見出せるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に工作したり、料理のアイデアをいただいたり、日常的に共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係性を十分に把握した上で入所後も絆がとぎれないよう、働きかけてご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の理解・協力をいただきながら、ご本人の馴染んだ床屋や、店や病院に行けるよう環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に食事をしたり、体操やレクリエーションに参加し、交流する機会を多く作るよう努め、関わりが困難な時には職員が仲を取り持つよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による契約終了となっても、再入所の申込みをしていただき、退院後、ケアに困らないよう支援し、お見舞いにも行き、状況把握にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や就寝時など1対1で関わる際には、利用者様の思いを引き出し、把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前までに携わってみえたケアマネや、ご本人・ご家族よりこれまでの暮らしについて、情報収集し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしぶりを介護記録に残し、次の勤務者にも申し送りをしながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、全利用者様のモニタリングを行ったり、毎日の申し送りの中でも、小さな気づきについて話し合い、柔軟に対応している。ご家族や主治医とも必要に応じ、密に連携している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録用紙に記録を残し、また、申し送りノートにも記入し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法律や契約内容に反しない範囲で、可能な限り、柔軟な支援をしていく姿勢で取り組んでいる。		

グリーンホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区社会福祉協議会の構成メンバーに入れていただき、小学校をはじめ民生委員や市社協の方々とパイプラインを持つことで行事への参加もしやすくなった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前や緊急受診時には、ご本人やご家族の希望を伺い、主治医にも相談しながら、状況に適した医療を受けられるように、連携を密に図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、心身の状況をしっかり観察し、変調があった際には些細なことでも報告できるよう連携を図っている。急変時には近隣施設の看護師とも連携を図り、協力体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日、お見舞いに行き、馴染みの看護師の顔を見せることで、安心感を与えると共に、入院中の利用者様の情報交換や相談などを行いながら、病院関係者とも良好な関係作りをし、早期、退院へのアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、施設における終末期に向けた方針を説明している。利用者様の身体状況、段階に応じて主治医とも相談しながら、ご本人やご家族とも話し合いを密にしながら意向を伺い、医療関係者とも連携をとりながら支援させていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、勉強会や消防署の指導の下、蘇生訓練を実施している。マニュアルや連絡網などを設置し、いざという時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導の下、夜間想定にて火災・避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭におき、指示、命令口調にならないよう、注意をはらいながら言葉かけを行っている。と同時に敬語、方言、言い回し等に配慮した声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりの中で笑顔で接し、利用者様が思いを伝えやすい雰囲気作りを心掛けている。意思疎通が困難な場合は表情、仕草などから思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大半を居室で過ごされる方、リビングでTVをご覧になる方、職員や他者との交流を好まれる方などさまざまであるが、安全・安心を第一に見守り、その方に合った支援をさせていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出支援時、季節に合った衣類選び、日常の整容など、ご本人の要望に沿った支援をさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューの提供、誕生日などのイベントにはメニューを工夫している。時々、ご一緒におやつ作りを楽しんでいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合った主食、副食の量を考慮し提供している。摂取不良時には栄養補助食品などで対応している。水分は1500ccを目安に確保できるように声掛けさせていただいている。状態によっては、とろみ剤も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、一部介助にて口腔ケアの支援を行っている。義歯の洗浄も定期的に行い、舌苔の除去などのお手伝いもさせていただいている。		

グリーンホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛け、誘導、見守り、一部介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材の提供、水分摂取量のキープ、室内外での散歩や適度な運動の声掛け、義歯の調整などを行っている。腹圧をかけやすいよう箱などを利用し、排便姿勢を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎回、入浴の意思を確認している。好みの湯温を把握し、ゆったり入浴していただけるよう配慮している。行事がない日は午前・午後とも入浴時間として確保、好きな時間に入浴していただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・照明等環境整備を行っている。夜間、寝衣への更衣の促し、一部介助。定期の巡回時のバット交換、排泄の一部介助にて心身とも、安静に休んでいただくよう支援している。日中、状況に応じ休息、午睡をとっていただき、散歩等、運動もしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	なぜ、薬が追加されたか、増量、減量されたかを注意、観察事項を連絡ノートに記入し、周知徹底している。効能、副作用がわかるよう処方箋が所定の場所に設置してある。確実に服用していただくため、錠剤が苦手な方、拒薬傾向の方など服用方法を工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年、愛用されてきた品物、ご家族の写真など見慣れた物に囲まれた中で、ラジオ、折り紙、カラオケなど好きなもので気分転換や、他者との交流に繋げている。レクの作業に関しては、その方のできる範囲でお手伝いしていただき、スタッフと協力し、季節の作品作りをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に一度、外出支援を行い、初詣、花見、地元の喫茶店やレストランでのランチ等を楽しんでいただいている。ご家族の協力を得て面会時等、外出、散歩などにもお出かけされている。近隣施設の夏祭りや、地域や保育園の運動会にも参加させてもらっている。		

グリーンホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じたり、他者とのトラブルが生じないよう、ご本人、ご家族と話し合い満足していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、電話を取り次いだり、代弁してご家族に用件をお伝えするなど、状況に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節にちなんだ作品作りをしてリビングなどに展示したり、換気やエアコンによる室温調整など、快適に過ごしていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにあるソファや和室コーナーの畳、玄関ホールに設置してある椅子等で、気の合った利用者同士が会話されたり、通常はユニット毎に別れておられる仲良しのお仲間写真を眺められたり、また、お一人の時間をゆったりと過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた机や椅子、スタンドなど安心できる馴染みのものを継続して使っていただけるよう、また、ご自分の作品や写真などを飾り付けて、楽しみや癒しを感じていただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D1、2シートを活用し、残存機能を把握した上で、利用者様が安心して、安全に自立した生活が送れるように工夫している。		